

こもれび

秋

第23号

発行:2009年10月1日
向陽台病院広報委員会



彼岸花をイメージしてデイケア・病棟の患者さんたちが制作した作品

CONTENTS

- 新病棟のご紹介「南3病棟—亜急性期について」
- 施設見学ツアー「あかねの里へ行ってきました」
- 地域連携「はってん祭」「熊本県精神保健福祉大会に参加して」
「合志川河川清掃活動」「そうめん流し」
- 博士クラブ「夏休み集中開催を行って」

向陽台病院の理念

心を病む人の立場に立った専門的精神科治療の提供を行う

地域への精神科医療の啓発活動を通じて心を病む人のみならず、地域住民の心の健康増進に貢献する

- 地域の様々な資源との連携の強化を目指します—医療・福祉・教育・産業・地域社会と積極的な連携が出来るように—
- 良質で安全な医療の提供を目指します—相手の立場に立ち、私達が安心して自分の家族を任せられるように—
- 専門性を高め、より高度な知識・技術の向上を目指します。—新しい技術・知識の習得、研鑽を心がけるように—

南3病棟 亜急性期について



デイルーム

2 亜急性期病棟は昨年9月にオープンした新病棟の3階にある29床の男女混合閉鎖病棟です。閉鎖病棟ですが、社会復帰を目標にしているため、病状の安定している方には開放的処遇をすることを基本としています。病室は2人部屋が2部屋ある以外は他の新病棟と同様に全て個室で、患者さんのプライバシー、快適



居室

性、利便性を重視しています。個室にはこの他に自我機能を強化する、集団生活でのストレスを緩和する、防衛としての自閉の利用、内省力を高めるなどの精神科治療の意味もあります。デイルームは南側の陽当たりの良い場所に2カ所あり、他の患者さんやスタッフと交流し、社会復帰に向けた他者との人間関係を学んでいく空間として機能しています。

南1・2病棟（急性期治療・女性病棟）の患者さんの大半は、1～3カ月以内に退院されますが、亜急性期病棟の患者さんは急性期の治療を終えても退院が困難なさまざまな問題（病状、



廊下

家庭・住宅問題など）を抱えておられる方が大半です。従って患者さんの社会復帰のための援助には他の病棟以上に精神科医、精神保健福祉士、臨床心理士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士など多職種での多面的な援助が必要とされます。

具体的には退院前ケースカンファレンス、退院前訪問看護、服薬自己管理訓練、薬剤師による服薬指導、集団精神療法、

ソーシャルスキルトレーニング、作業療法、退院前体験デイケア、社会復帰フォーラム（退院した患者さんへ交えた退院後の課題、生活、目標などの情報交換会）ご家族・地域保健師・福祉関係者との連携会議、個別のカウ

ンセリングなどを一人ひとりの患者さんの状態に応じて実施しています。また、患者さんの援助の大きな柱であるご家族への支援体制として統合失調症・うつ病・摂食障害・発達障害は月に1回、老年認知症は3カ月に1回、疾患別家族教室を実施しています。

これからも患者さんの社会復帰のためのより良い支援を実践していく予定です。皆さまのご協力とご支援を今後ともよろしくお願いいたします。

（副院長 田中 隆彦）

施設見学ツアー

「あかねの里」へ行ってきました

当院では、社会復帰を考えている、または取り組んでいる患者さんなどを対象に、月に1回（最終水曜日）、社会復帰に関するテーマに沿って「社会復帰フォーラム」を開催しています。「社会復帰のための施設」…といったら、当院では共同住居陽だまりや、グループホーム、就労継続支援施設（B型）Worksみらいなどが思い浮かびますが、実は他にもたくさんの施設があります。

7月15日、病院をちょっと飛び出して、希望する患者さん10名とスタッフ11名とで、熊本市戸島にある「熊本県あかねの里」を見学してきました。

ここで少し「熊本県あかねの里」について説明します。

あかねの里は、自立訓練（生活訓練）施設の「あかね荘」、地域生活支援事業の「あかねホーム」、就労継続支援（B型）施設の「あかねワークセンター」の3つの施設から成り立っています。基本方針としては「地域社会で安心

して生活が送れるように障がい福祉サービスを提供し、生活支援・援助を行うこと」「地域社会との交流をととして、社会復帰、地域生活の促進と自立を図ること」となっているそうです。

まずは、あかね荘の食堂で施設の概要について説明があり、その後施設の見学をさせていただきました。あかね荘は、生活訓練プログラムに加えて、滞在型としても機能しています。実際の企業などでの作業訓練も行われており、最低賃金も保証されているそうです。参加した方々は興味を持って聞かれていたようでした。その他、あかねワークセンターの見学も行いましたが、エコバックやクッキー、箱作り、印刷作業など、たくさんの方が黙々と作業をされていました。中には、自身の就労訓練の体験と照らし合わせながら見学していた人もいたようです。私は、思わず帰りにエコバックとクッキーを買ってしまいました。エコバックはとても重宝しています。訓練する側も、単に生産活動を行うだけではなく、このように需要があり、必要とする人に供給ができるよう、少しでも一



あかね荘

般の経済の流れと同じような仕組みの中に入れるようになると良いのではないだろうか、と感じました。



あかねワークセンターの商品

翌週の社会復帰フォーラムでは、見学された方を中心に、報告会を行いました。参加した方々は、社会生活についてのヒントを得たり、社会復帰について考える良い機会となったようです。当事者が一つでも多くの社会資源を知り、それぞれの社会復帰に役立てることができれば、と思います。

（リハビリテーション部

精神保健福祉士 岩井 佑美）



施設の説明を聞く参加者



はってん祭で向陽台病院が踊る「よさこいソーラン」

はってん祭

8月8日、植木町主催のはってん祭にデイケアメンバーと一緒に参加して来ました。当日はとても暑く、朝早くから汗をかきながら準備に追われました。デイケアからはメンバーが作った草細工、陶芸作品、裁縫で作った髪留め、園芸で栽培した野菜の販売を行いました。また、カキ氷の販売も、好評だった去年に引き続き行いました。人出が多い時間帯は、行列ができるほどでした。夕方、一時間ほど夕立が降りましたが、スタッフとメンバーとが協力しながら呼び込み、接客を行ったかいあって、結果はカキ氷370杯、その他の販売品も全て完売することができました。また、自分が作った作品が売れると「よかった」などメンバーからは笑顔がみられ、達成感につながったと思います。

よさこいソーランでは去年とは違った音楽、振り付け、ということもあって、スタッフ自身が練習の

際に挫けそうになりましたが、練習の回を重ねるごとに上達し、それぞれが教えあい、メンバーからは振り付けの改善点や工夫など意見がでるようになりました。

当日は、予想外に

多くの観客の前での発表になり、緊張していましたが、全員が笑顔で最後まで踊りきることができました。踊りを見ていたメンバーからは「すごく良かったよ、そろっていたね!」と声を掛けてもらいました。また「来年は参加してみたい」という声がありました。

地域のイベントに参加し、多くの人にふれあい、協力して何かを成し遂げる大変さや喜びを知ることができたと思います。

(リハビリテーション部

作業療法士 宮崎 裕一)

熊本県精神保健福祉大会に参加して

8月28日、熊本県精神保健福祉大会にデイケアからメンバー21名、スタッフ4名が参加しました。

今回の開催は阿蘇ということで、10時にはマイクロバスに乗り込み、スタッフやメンバーに見送られながら病院を出発しました。車内では話をしたり、写真を撮ったり



展示作品コーナーにて

と楽しく過ごし、気が付けば第一の目的地、大津の道の駅へ到着。少し早めの昼食を食べました。道の駅定食や馬すじカレー、とんこつラーメンでお腹を満たした後は、物産館でお土産を購入したり試食を食べたりと思い思いに過ごしました。中にはソフトクリームを昼食前に1つ、昼食後にもう1つと、合わせて2つも食べたメンバーもいました。その後、会場である阿蘇市阿蘇体育館へ移動。会場に入ると、熊本県内の病院や施設で作成された作品展示や物品販売もあり、その中には当院の作業療法で作った作品も展示されていました。

開会講演では神楽保存会の方々による迫力ある中江岩戸神楽を鑑賞しました。大会では精神科医療機関永年勤続者として向陽台病院から3名のスタッフが表彰され、皆であたたかい拍手を送りました。

天気が心配されましたが、ほとんど雨に降られることもなく無事に帰院することができました。阿蘇の大自然の中で、普段よりもメンバーの笑顔をたくさんみることができ、充実した時間を過ごすことができました。

(リハビリテーション部

精神保健福祉士 木村 千尋)

合志川河川清掃活動

「くまもと・みんなの川と海づくり県民運動」の一環として、8月29日(土)に合志川の清掃活動が気持ちの良い晴天の下、開催されました。合志川河川公園に着くと、早朝にも関わらず、すでに地域の住民の方、地域企業の方、小学生、中学生と多くの集まっていました。向陽台病院からは職員21名、実習生5名が参加しました。職員の中には家族を伴っての参加もあり嬉しく思いました。

役場職員の方の挨拶や注意事項についての話があった後、軍手とビニール袋が配布され、清掃活動の準備が整ったところで1枚写真を撮りました。

担当した区域は河川公園周辺の米塚橋～伊知坊橋でした。私はこの清掃活動に参加するのは3回目です。以前に比べるとゴミが少なく、配布されたビニール袋がもったいないとも思いましたが、地域で自然を美しいまま保護する意識が浸透してきたのだと感じました。この意識がもっと広まれば昔のように川遊びができるようになる



ゴミ拾いの様子



河川清掃活動に参加された皆さん

るのだろと思っています。

8月最後の週末気持ちの良い汗をかくことができました。

(医事課 田尻 美由紀)

そうめん流し

7月25日(土)、『地域生活支援センターなでしこ』で、お昼にそうめん流しを開催しました。今回で第7回を迎えるこの行事は、『なでしこ』で調理したり、『Worksみらい』で竹を切って組んだり、社会福祉事業が協同して運営するイベントです。『Worksみらい』の利用者の方も就労として参加し、準備や設営や受付など責任を持って行われました。

入職して初参加の私の不安とはうらはらに、『なでしこ』の利用者21名、『Worksみらい』の利用者12名、他施設より16名、職員34名、その他、地域の方やご家族など、合わせて95名の参加があり、大変嬉しく思いました。

当日は天候が不安定で、前半は

テント内でそうめんを竹に流して食べることができましたが、雨足が強くなった後半からは、そうめん流しができず、室内に移動し、竹の器でそうめんをいただきました。

あいにく天気には恵まれませんでしたが、参加していただきました皆さまの協力があつて柔軟な動きができ、夏の風物詩であるそうめんを楽しむことができました。

また、回を重ねる度に進化している行事なので、今後もぜひご期待ください。

(地域生活支援センターなでしこ
精神保健福祉士 吉本 茜)



流れるそうめんをおいしそうに食べる参加者



博士クラブ

夏休み集中開催を行って

毎月第1土曜日に
行っている発達障
がいの方のためのグ
ループ「博士クラブ」
の夏休み特大版を昨
年に引き続き、7月22
日(水)から8月22日
(土)の間、「博士ク
ラブ 夏休み集中開
催」として開催しまし



夢中で作業中

1日の流れ

- 13:00～ 流れの確認
約束事の確認
自己紹介
- 13:10～ 頭の体操
- 13:25～ 学習の部屋へ移動
- 13:30～ 学習タイム①
- 14:10～ 休憩
- 14:20～ 学習タイム②
- 15:00～ 感想会

た。週2回(水・金)の午後に、発
達障がいや、不登校などで当院
へ通院中の思春期の患者さんと、
南3病棟の思春期ユニットの患者
さんを対象にしています。プログ
ラムは、中学校で教師をされてい
た大田先生を講師として招き、学
習支援を中心に行いました。学習
支援を始めたのは、発達障がいの
ために能力のバラツキが激しく
「勉強でつまずいてしまう」、「勉
強が苦手で自分に自信が持てず
に学校も楽しめない」と悩んでい
る患者さんやご家族に、臨床の
中で数多く出会ったからです。

「家ではなかなか勉強に集中
できない」とか、「一人でやると分
からないところで止まってしまう」
という方には、学習支援を個別
に行う中で、苦手な分野のサポー

トや、本人のできること、できな
いことのアセスメントなどを行っ
ていきました。また、学習の前には
「手つなぎ風船パレー」や「ラ
リーに挑戦(相手が打ちやすいよ
うにボールを打ち、ラリーを続け
る)」などの対人関係のスキルを
高めるような遊びを取り入れまし
た。期間中の土曜日には、「親の
会」を2回開催し、発達障がいの
特徴や対応の仕方を学ぶ機会を
設けました。

今回の集中開催では小学生高
学年から高校生まで、毎回10名
前後のメンバーの参加がありまし
た。環境の刺激を減らし、集中し
やすいように机を配置したり、時
間の見通しをホワイトボードに書
いておくなどの工夫(構造化)を
行いました。学習時間は1時間半
と長かったのですが、スタッフが
びっくりするほどの集中力で取り
組んでいました。はじめはなかな
か先生へ質問できなかったメン
バーも徐々に質問ができるように



集中

なってきました。それぞれが夏休
み中の自分の目標を決め、目標
達成のために努力していたと思い
ます。「質問ができたし、わかる
ようになってよかった」「博士クラ
ブがある日は表情がいいです」な
どの声を聞き、スタッフもとても
嬉しかったです。

最終日には終了式を行い、講
師の先生、スタッフ、自分自身で、
「夏休みにがんばったこと、でき
るようになったこと」を振り返りま
した。本人の持っている力を引き
出し、強める、そんな援助ができ
るようにスタッフ一同も研鑽して
いきたいと思っています。

来年も乞うご期待!

(リハビリテーション部

臨床心理士 杉本 千佳子)

◀ 今日の予定を確認しています

こもれびプラザ

向陽台病院ではさまざまな情報を発信しています

栄養だより

ストップ!! 糖尿病

厚生労働省の調査で、糖尿病患者とその予備群の数が2210万人になり、10年で**1.6倍**に増加していることがわかりました。糖尿病をそのまま放置し続けると、合併症の危険性が高くなり、生活の質が著しく低下することになります。健康で楽しく、有意義な人生を送るために、食事や運動による糖尿病の改善と予防を考えてみましょう!

どうして糖尿病の人が増えたの??

糖尿病が急増した原因の多くは生活環境の変化にあります。あなたも心当たりがありませんか?

糖尿病が増加した原因

- 運動不足
- 座りっぱなしの生活
- 食べすぎ、飲みすぎ
- 脂質の多い食事

血糖コントロールの目安 (HbA1c)

指標	優	良	可		不良
			不十分	不良	
HbA1c	5.8未満	5.8~6.5未満	6.5~7.0未満	7.0~8.0未満	8.0以上

資料: 日本糖尿病学会/血糖コントロールの指標と評価

糖尿病を治療しないでいると...

★医療費がかかる ★生活の質が下がる

糖尿病の治療にかかる費用は、合併症がないと年間約24万円、合併症があると年間約36万円かかると言われています。合併症の中でも、糖尿病性腎症は透析が必要になると年間約500万円の治療費がかかります。合併症を予防することは、生活の質を保つだけでなく、医療費を抑制することにもつながるのです。

食事療法の基本

①問題のある食行動を見直しましょう

②バランスのとれた食事をとりましょう

食事の量だけでなく質にも気をくばり、バランス良く食べましょう。

③食事は3食きちんと決められた時間にとりましょう

④野菜や海藻を積極的にとりましょう

野菜や海藻は、抗酸化作用のあるビタミン類や糖の吸収を穏やかにする食物繊維を多く含んでいます。

⑤良く噛んでゆっくり食べましょう

良く噛んで食べることで満腹感を高めることができます。

(診療部 管理栄養士 宮本 愛)

そよ風

平成21年7月25日(土)にそよ風家族会が開催されました。当日は雨模様となり足元が悪く心配されましたが、20家族・20名の参加がありました。前回視聴した「統合失調症の人の回復力を高める家族のコミュニケーション〜(前編)〜」というDVD勉強会への反響がよく、今回も引き続き「回復力を高める家族のコミュニケーション〜のぞましい対応の仕方(後編)〜」のDVD視聴による勉強会を行いました。DVDの内容としては、患者さんに対して家族はどのような対応がのぞましいのかをロールプレイを用いながら説明がありました。対応の基本のポイントとして①**共感(相手の気持ちを理解)する** ②**気持ちや状況がわからなければ質問する** ことが大切だと話されていました。また、参加されたご家族の方がポイントを書き留め、講師の言葉に相手をうたれている姿が印象的でした。DVD視聴後、小グループに分かれ座談会を行いました。皆さんの状態や年齢、環境はさまざまですが、ご家族からは「家族が社会復帰に対し焦ってしまい、本人の気持ちに耳を傾けていなかったのかもしれない」「本人の現在位置を知ること、家族が余裕を持ち、待つ姿勢も必要と感じた」など、意見交換もありました。ご家族のお話からも日ごろの様子などを伺うことができ、少しでも回復へのサポートにお役にたてたらと思っています。

今後も皆様のご参加をお待ちしています。

(リハビリテーション部

精神保健福祉士 後藤 加菜)

■次回家族会(予定)

平成21年10月24日(土) 10:00~12:00



編集後記

今年の夏もさまざまなイベントが催され、それぞれ多くの方々に参加されたようです。そのときのことを語る皆さんの表情はとてにこやかで、聞いているこちらまで嬉しくなりました。さて、当院のホームページが6月からリニューアルしています。機会があればぜひのぞいてみてください。

(須藤 晶子)



動向を探る

向陽台病院を利用されている患者さんの動向を掲載しています。

(単位:人)

集計月	外来延数	新患者数	1カ月ごとの入院退院者数	
			入院	退院
2009年 6月	2,887	50	40	39
2009年 7月	3,033	52	36	35
2009年 8月	2,635	35	38	31

外来担当医一覧表

※下記担当医は変更する場合もございます

	月	火	水	木	金	土
午前	非常勤医師	田中(隆) 松本	非常勤医師	田中(隆) 非常勤医師	横田 松本 非常勤医師	週替わり
午後予約	田中(亨) 非常勤医師	田中(亨) 非常勤医師	非常勤医師	村上	思春期外来 横田 佐藤	

(2009年10月1日現在)

- 診療科目 精神科・心療内科
- 特殊外来 もの忘れ外来
児童思春期(発達障害)外来

- 病床数 220床

- 外来診療時間 ※祝日は平常どおり診療しています
月～金曜日 午前9時40分～12時00分
午後2時30分～5時00分

- 土曜日 午前9時40分～12時00分

新しく診療を受けに来られた患者様は予約が必要です

<予約受付: 096-272-5250 平日: 午後4時まで/土曜日: 午前11時まで>

【患者の権利】

1. 患者は、良質な医療サービスを平等に受ける権利があります。
2. 患者は、人格・意志が尊重され、人間としての尊厳を守られる権利があります。
3. 患者は、自分自身の診療に関する情報の提供を受ける権利があります。
4. 患者は、医療従事者から説明を受けたのちに、提案された診療計画などを自分で決定する権利があります。
5. 患者は、プライバシーを尊重される権利があります。



産交バス
向坂バス停から
徒歩3分
明治乳業バス停から
徒歩3分

車
植木ICから10分

JR
植木駅下車
タクシーで6分

医療法人横田会 向陽台病院

〒861-0142 熊本県鹿本郡植木町大字鎧田 1025
TEL: 096-272-7211・FAX: 096-273-2355

<http://www.koyodai.or.jp/>

日本精神神経学会専門医研修指定病院 日本精神科病院協会認定専門医研修病院
2005年から日本医療機能評価機構の認定を受けています

